台湾総督府図書館長 山中樵

——事跡と回想録

一萬號までの長い年月の間

一卷の書

臺灣總督府圖書館長　山中樵

臺灣日日新報が創刊一萬號になつたといふ所以をもつてそのお慶びにかうしたお話をせられこゝにお話する機會を與へられましたことは洵に光榮に存する次第である。言ふ迄もなく新聞は廣告といふ衣裳を著け論說といふ頭をもつて居るものであつて社會の新しい出來事を報道するだけでも既に一の意義をもつてゐる譯であるが更にその日々の出來事に對して解説を與へることに依てそれを一般の讀者に講解せしめ、又それに對する輿論を喚起してこの輿論を指導してゆくものである。と云へば考へると新聞は社會教育上立派な一

内地においては宮城、新潟の
近代図書館建設者・山中樵

山中樵が図書館人としてのスタートを切ったのは、宮城県立図書館の新館建設が開始された 1911（明治 44）年であった。大正元年落成の新図書館の準備から初期の図書館運営まで、山中は「近代図書館」の草創期に際会する。

本書に収められた山中の事蹟と人生とは、近代日本の図書館史研究の好個の史料であるとともに、内地と外地を包含する「帝国日本の蔵書空間」の広がりを想像しうる資料。

【全一巻】収録資料

『木山人山中樵の追想—図書館と共に三十六年』
（山中正編著／山中浩発行、1979 年）

山中樵「一巻の書」
（『台湾日日新報一万号及創立三十週年記念講演集』同社、1929 年）

＊新たに詳細目次・解題を付す。

山中樵（やまなか きこり）年譜

1882　福井県福井市佐佳枝上町に山中家の嫡男として生れる
1897　宮城県尋常中学校三年に転入学
1911　宮城県図書館司書
1915　新潟県立図書館設立事務調査・県立図書館司書
1917　新潟盲唖学校長
1919　盲人用点字図書室を公開
1927　台湾総督府図書館長
1929　台湾ラジオ放送（JFAK）から「図書館ニュース」を毎週一回放送（以後敗戦近くまで継続）
1942　皇民奉公会参事（文化部勤務）
1943　国民読書運動六ヶ年計画を策定
1944　図書館の蔵書 18 万冊余を近郊 4 ヶ所に疎開
1945　台北市方面委員、図書館博物館の接収を受ける。征用諮詢員として新中国図書館博物館の再建に協力
1947　仙台市に引き揚げる。11 月死去

『台湾総督府図書館長・山中樵——事跡と回想録』詳細目次

■『木山人山中樵の追想—図書館と共に三十六年』
巻頭に寄せて　岸田 実（国会図書館館長）　15 ～ 16
序にかえて　山中 浩（長男）　17 ～ 18
目次　19 ～ 26

本島人教育の発足／図書の疎開と被爆
八、終戦処理と日本人学校のことなど　133 ～ 140
図書館の復元／鎮区長も参嘱される／在日本人学校仮舎人として／台湾総督府博物館のこと
九、台湾文化に果たした役割　141 ～ 142

Ⅵ　父の人間性とその晩年
一、対人関係を大切にした父　145 ～ 156
父のライブラリアンシップ／ギブアンドテーク／出稼ぎ根性への批判／芸術・文化には同調し／父の宗教観／父と文人墨客との出会い／郷土研究の奨励／出文庫の実施
二、晩年　156 ～ 164
輪王寺に決める　164
四、兄弟とその子供たち　166 ～ 174
[illegible]に生き貫いた山中省二／[illegible]久保操／鉄道と共に六十五年のた山中忠雄／賢かった石川芳子／近代こけしの育ての親山中登／季妹樋脇千代のこと
Ⅶ　追悼と思い出
弔辞　菊地 勝之助（日本図書館協会並宮城県図書館代表）　177 ～ 178
弔辞　宮城県第一高等女学校同窓会代表　179 ～ 180
弔辞　阿部 とめ（台湾宮城県第一高女同窓生代表）　180 ～ 181
日本図書館界の元長老を悼む　坪谷 善四郎（日本図書館協会名誉会員）182 ～ 183
山中樵氏への追憶　寺沢 了（元京城大学司書官）　183 ～ 184
機兄の思い出　山中 忠雄（弟・国鉄参与）　184 ～ 187
恩師の思い出　羽生 ひでよ（仙台市　故・羽生隆氏夫人）　187 ～ 189
七十年前のラッキョー先生の思い出　伊達 たまき（仙台市　宮一女十一回卒／宮城県平和を守る会副会長）　189 ～ 191
山中樵先生を敬慕して　高木 栄一（元新潟図書館司書）　191 ～ 192
創見者・山中樵先生を仰ぐ　渡辺 正亥（習志野市　大東文化大学教授／元新潟図書館長）　192 ～ 194
恩人・山中図書館長の思い出　石栄 博一（横浜市　元台湾総督府図書館職員）194 ～ 197
館長と私　百済 孝四郎（奈良市　元台湾総督府図書館職員）　197 ～ 199
台湾時代の思い出　山下 隆吉（新潟市市史編纂委員／元台湾総督府図書館職員）　199 ～ 201
山中樵図書館長の思い出　岩生 成一（東京　元台北帝大教授／元東京大学教授）201 ～ 204
山中館長を偲んで　小葉田 淳（京都府元台北帝大助教授・京都大学名誉教授）205 ～ 206
二つの思い出　山口 充一（長岡市　元台湾総督府理事官）　207 ～ 209
山中樵さんを偲んで　堀川 安市（長崎市元台北第二師範学校教諭／博物館主事）209 ～ 211
山中樵先生と私　山本 運一（岐阜県　東海女子短期大学教授／元台北第一高等女学校教諭）　211 ～ 213
山中樵先生の思い出　平沢 亀一郎（仙台市　元台湾総督府理事官）　213 ～ 214
偲び草—山中樵先生のこと　中村 忠行（奈良県大和郡山市　元天理大学教授）214 ～ 217
山中樵先生の追悼に寄せて　早坂 てる（世田谷　元台大教授／故・早坂一郎氏館長会議の開催／市町村図書館の育成と図書館網の確立／図書館職員の養成と資質の向上／新津町立図書館設立への援助／図書館運営の民主化
三、盲唖の子等にも教育の機会を　86 ～ 89
四、夜間中学校の設立と校長就任　90 ～ 92
五、全国大会やブロック協議会開催など　92 ～ 94
全国大会の開催／ブロックの活動／協会名誉会員にあげられる
六、新潟市社会課長に迎えられる　95 ～ 96

Ⅴ　台湾総督府図書館長時代
一、総督府図書館創設のあらまし　99 ～ 102
二、渡台　102 ～ 105
三、台湾総督府図書館長に就任　105 ～ 115
総督府図書館の使命は何か／総督府図書館は全島民のためのもの／総督府文教当局の父への期待／台湾人の読書の習慣／図書館未設置地域の解消へ努力／学校図書館の設置を推進／師範学校卒業生に対する講話／ラジオ放送による啓蒙宣伝
四、台湾関係資料目録の集大成をめざして　115 ～ 121
解題目録の作成／台湾関係資料展観目録の作成／明治 7 年征台の役関係資料目録／台湾文献展観目録／台湾文化三百年記念資料展への協力／南方関係資料目録の集大成をめざして
五、山中樵の台湾図書館経営の理論　121 ～ 125
時局の推移と図書館運動／戦時下の図書館活動／外地図書館の使命達成への努力
六、国民読書運動の中で　125 ～ 130
七、戦時下の総督府図書館　131 ～ 132

本書と連携する資料集

『戦前期「外地」図書館資料集—台湾編』全十巻
編・解題—春山 明哲
造　　本—B6 判・糸上製函　総 3,940 頁
価　　格—全巻揃価 198,000 円

Kanazawa Bumpokaku
金沢文圃閣
〒920-0867 金沢市長土塀2-16-30
Tel 076-261-8884　Fax 233-3111
□書店様へ…ありがとうございます
直接小閣までお申し込みください
図版はすべて本書より
価格は税別　049／05／4000